

【進行状況】

1 卒業記念品・記念物等の調査取り扱い

- 卒業生関係 ・卒業アルバム、卒業文集、同窓会名簿等
 - ・同窓会事務局が小学校に移るため、まとめて小学校へ（同窓会・小学校の了承済み）
- 文化財等 ・4/24 に文化財課と該当品を確認。
 - ・赤中・泉小が展示できないものはすべて文化財課が引き継ぐ。

2 記念誌・記念式典に向けた検討・準備

- 記念誌 ・校内で編集担当者を分担し制作。9月上旬に大陽社印刷所へ初稿を渡す。
- 記念DVD ・泉中の歴史（生徒学習のまとめ）、現在の泉中の姿（業者に依頼）の2本を収録。
- 記念タオル ・泉校区コミュニティ協議会から寄贈。「I ♥ 泉」を生かしてデザインを検討する。
- 記念式典 ・式典および式典後の内容について、原案に感染症対策を入れ再検討 ※協議事項へ
 - ・同窓会実行委員会を有志15名で編成。式典運営および式典後のイベント企画・運営について協力依頼
 - ・これまでに3回の実行委員会を開催
- 出発式 ・次回総務部会にて赤羽根中学校より提案

3 学校用品等補助対象品目の確認

- 備品、消耗品 ・5月に赤中各担当者と現場確認。赤中へ渡すものをマークしリストアップ。
 - ・使わない予定の備品等は、定期的に市内小中学校へ知らせ、希望校で引き取る

4 その他総務部会に関する事項

- 歴代校長写真 ・22人分を1枚のパネルにまとめ赤中に掲示してもらえるよう準備

【協議事項】

1 閉校式典開催日について

日時：令和3年3月13日（土）13：30から ※資料①タイムテーブル案参照

理由：土曜日開催にすることで、同窓生が参加しやすくなるため

2 式典の内容とコロナウィルス感染症対策について

(1) 対策の基本方針

参加者	・参加者はマスク着用とし、受付前にアルコール消毒の場を設ける。 ・検温する場所も設け、当日の体温・氏名・連絡先を記入してもらう。 ・来校者については、記念品をもらうだけであっても式典参加者と同様に検温をし、氏名・連絡先を記入してもらう。
運営関係者	・参加者と同じ。 ・フェイスシールドの着用（受付・式典中話す場面がある担当者等）
式場	・窓を開ける、外向きにサーキュレーターを設置するなど、吸気・排気の観点から強制的な換気を行う。

中止の判断	・令和3年3月に入ってから、泉校区で感染者が出た場合、式典およびその前後のイベントを中止する。 (緊急事態宣言が愛知県下に発令された場合はこの限りではない。)
-------	--

(2) 式典会場について

① 体育館

立ち見を含め最大 700 人を収容できるが、一人あたり 100×100 cmの距離を確保し座席数を 400 人程度とする。

② 第2会場について

体育館の座席数が減ったことに伴い、市の遠隔授業システムを用いた双方向通信のできる第2会場を検討する。

③ その他

機材をそろえることができれば、体育館の外にパブリックビューイングを設置する。

(3) 式典参加者について (実施案)

	役職等	予定人数
主催 【58 人】	①市役所等関係者 ②統合準備委員 ③泉校区自治会 ④同窓会役職者 ⑤同窓会実行委員 ⑥現職員	→ 11 人 → 9 人 → 8 人 → 2 人 → 15 人 → 13 人
来賓 【48 人】	⑦県議・市議 ⑧歴代校長 ⑨歴代P長 ⑩保小中高校長	→ 2 人 → 8 人 → 35 人 → 3 人
一般 【294 人】	⑪生徒 ⑫PTA 役員 ⑬同窓生 ⑭元職員(除校長) ⑮保護者 ⑯地区在住者	→ 84 人 → 11 人 } 199 人

(4) 内容について

	内容等	感染症予防対策
オープニング	①同窓生による歌・演奏 ②同窓生による映像	歌・演奏はやめ、同窓生・生徒による映像

式典	①開会の言葉（同窓会長） ②国歌斉唱（ピアノ：同窓生） ③実行委員長あいさつ（コミュニティ会長） ④式典あいさつ（市長） ⑤来賓挨拶（県議） ⑥来賓紹介（同窓生） ⑦泉中学校のあゆみ（生徒代表） ⑧思い出交流（同窓生 5 名）※注 1 ⑨校旗返納（校長・教育長） ⑩校長あいさつ（校長） ⑪校歌斉唱（指揮・ピアノ：同窓生） ⑫閉会の言葉（同窓会副会長）	→マスク着用のまま歌う →フェイスシールド着用 →フェイスシールド着用 →フェイスシールド着用 →フェイスシールド着用 →フェイスシールド着用 →フェイスシールド着用 →フェイスシールド着用 →マスク着用のまま歌う
式典後	①恩師代表による授業（教室） ②生徒による企画（体育館） ③施設開放（校地内全般） ④同窓生の屋台（駐車場） ⑤統合準備委員会	→フェイスシールド着用 →※注 2 →屋台または記念弁当の販売

※注 1 資料②参照

※注 2 式典会場に入れられない人が多数になるため、校舎内の掲示・展示を充実させる。この掲示・展示は、3 月末まで行い、3/14 以降の施設開放に訪れた人にも見られるようにする。

【今後の検討事項】

- 式典会場の座席数が少なくなることに伴い、式典会場に入れられない人への対応を検討する。
 - ・遠隔通信システムを用いて別会場との双方向ライブ中継
 - ・体育館周辺でパブリックビューイングのための映像と音響設備
 - ・記念式典の録画と放送の依頼（ティーズ）

- 閉校式典の案内・告知をいつ、どのような方法で行うか。

【来賓・主催者】個人宛の出席依頼をいつ発送するか。

【一般参加者】ポスター・広報たはら 12 月号・回覧板・ブログ・SNS 等を使うが、式典会場に入れる数に限りがあるため、どのような内容で伝えるか。

- 雨天案の作成

時 分	体育館	校舎等	屋外	その他	生徒
11	0				3限授業
	5				
	10				
	15				
	20				
	25				
	30				控室（木工・金工室） へ移動 昼食・待機・準備
	35				
	40				
	45				
	50				
	55				
12	0				
	5				
	10				
	15				
	20				
	25				
	30				
	35				
	40				
	45				
	50				
	55				
13	0				オープニング・ 式典参加
	5				
	10				
	15				
	20				
	25				
	30				
	35				
	40				
	45				
	50				
	55				
14	0				個々の計画で参加
	5				
	10				
	15				
	20				
	25				
	30				
	35				
	40				
	45				
	50				
	55				
15	0				個々の計画で参加
	5				
	10				
	15				
	20				
	25				
	30				
	35				
	40				
	45				
	50				
	55				
16	0				退校アナウンス
	5				
	10				
	15				
	20				
	25				
15	0				個々の計画で参加
	5				
	10				
	15				
	20				
	25				
14	0				オープニング・ 式典参加
	5				
	10				
	15				
	20				
	25				
13	0				オープニング・ 式典参加
	5				
	10				
	15				
	20				
	25				
12	0				控室（木工・金工室） へ移動 昼食・待機・準備
	5				
	10				
	15				
	20				
	25				
11	0				3限授業
	5				
	10				
	15				
	20				
	25				

資料② 思い出交流について

1 概 要

同窓生代表5名(司会1・発表4)による思い出発表に対して、一般参加者が自分の思い出や意見を付け加えていく交流会。

2 役 割 (選出は同窓会実行委員会に依頼)

- 思い出発表 4 名
 - 同窓生 A (70 歳以上) 1 名
 - 同窓生 B (50～60 代) 1 名
 - 同窓生 C (30～40 代) 1 名
 - 同窓生 D (10～20 代) 1 名
- 司会 1 名
- フロアマイク 1～2 名

3 思い出交流の流れ

- ① 思い出発表者と司会者は登壇し自己紹介
- ② 思い出発表者は順番に自分の思い出を2分程度で発表する
- ③ 4名の発表が終わったら、司会者は発表に関連する内容からテーマを設定し、「只今の発表の中で部活動に関する話題がいくつかありましたが、会場みなさんからも部活動の思い出を教えてくださいませんか」のように、フロアにいる参加者に発言を呼びかける。
- ④ フロアマイク担当者は会場を動き回って、参加者の発言をマイクで拾う。
- ⑤ 時間内③④を繰り返し、会場全体で幅広く思い出の交流を図る。

4 備 考

- ・ 思い出発表者、司会者、フロアマイク担当者はフェイスシールドを着用する。
- ・ 第2会場と中継をつなぐ場合、第2会場にいる参加者の声も拾う。